

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400932		
法人名	有限会社 鶯声		
事業所名	グループホーム本明の家		
所在地	長崎県諫早市本明町455-1 (電話) 0957-25-1152		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年10月11日	評価確定日	2007年11月12日

【情報提供票より】 (19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1階建ての	1 ~ 1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	9,000+実費 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	— 名	要支援2	— 名		
年齢	平均 87 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諫早記念病院	草野内科小児科医院	中古賀歯科医院
---------	--------	-----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、田畑を含め自然を感じられる静かな場所に位置しており、バリアフリーや手すりの設置など安全面に配慮した構造となっています。ホーム内は、清潔に管理され、壁には入居者が作られた詩などが飾られています。入居者にも家族にも喜んで頂くことや地域との関わりを重要視した理念は、スタッフに浸透しており、食事や声かけなどに地域性を活かした支援が展開されています。入居者各々の行動を一時間毎に記入した記録からも、入居者や家族への配慮が感じられます。運営者は、地域の自治会長を務められており、管理者を中心に地域行事等にも積極的に参加されるなど、地域の中の位置付けが明確なホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を踏まえた改善に取り組まれています。 改善計画シートの活用により改善課題を明確にされ、可能なことから取り組まれています。今後更に改善していきたいといった積極的な姿勢もうかがえます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義はスタッフに浸透しています。 自己評価はスタッフ全員で取り組まれ、評価制度の意義がスタッフ全体に浸透しています。改善に向けた姿勢から今後の取り組みに期待できます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開催頻度の見直しと、これからの活動に期待します。 会議内容としては、ホームの活動や特性についての紹介、外部評価結果の報告などが確認できましたが、開催頻度は十分とは言えません。開催頻度の充足、会議メンバーによる課題の共有化など、今後の積極的な取り組みに期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見の聴取に努め、運営に反映されることを期待します。 意見箱の設置や苦情相談対応手順の掲示、面会時の対応など、ご家族の意見を聴取するよう努められていますが、その実績については確認できませんでした。今後もご家族の意見の聴取に努め、ホームの運営に反映されるよう、運営推進会議を含めた積極的な取り組みを期待します。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の中のホームの位置付けが明確になっています。 地域行事を、地域との協働の場と捉え、運営者や管理者を中心に積極的に参加されています。入居者の散歩の際の近隣の方々の見守りなど、協力体制も築かれています。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的なイメージ」や「地域との関わり」が読み取れるホーム独自の理念を掲げ、実践に向けた取り組みが展開されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、カンファレンスや申し送りを活用した周知が行われています。スタッフにも十分浸透していることが、ヒアリングやご利用者への接し方で確認できました。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中のホームという考えが定着しており、運営者及び管理者が中心となり地域の行事へ参加されています。運営者は地域の自治会長の立場にあるなど、地域との関わりが深く、ご利用者も近隣の方が多いためです。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを活用し前回の外部評価の結果に基づく改善活動が行われています。自己評価についても全スタッフで取り組まれており、評価制度の意義についてもスタッフに浸透しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については3ヵ月に1回の開催で、ホームを理解していただくための内容や火災対策、外部評価結果の報告、意見交換が議事録により確認できました。	○	運営推進会議の開催頻度について再考が求められます。また、質の向上や改善のヒントになるよう意見交換の記録は詳細に残されることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、いろんな連携が図れるように話し合うなど、取り組みの状況はヒアリングにより確認できました。具体的事例としては生活保護に関する相談事例が確認できました。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護計画書の同意状況は確認できました。毎月の現状報告のお便りや健康診断結果の写しの配付、写真の配付も行われています。また、面会簿によりご家族の訪問が多いことも確認できました。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置されており、苦情対応の手順等も掲示されています。ご家族のホーム行事への参加の際や訪問時に要望等の聴取にも努められているとのことですが、具体的な意見等の運営への反映は確認できませんでした。	○	ご家族の意見を聴取する仕組みの検討を推奨します。気軽に意見を述べられる環境についてスタッフで話し合いを行うことから始められては如何でしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの定着率が高く、近年退職者はいないとのこと。退職者が生じた場合は、原則ご利用者に納得いただけるように説明されるとのこと。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加については、管理者が薦められており、受講状況にも問題は無いようです。受講後は、研修報告書を作成され、スタッフで共有する仕組みもあります。	○	今後は、スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握した上での教育計画作成についてご検討下さい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へのスタッフの参加や在宅ケアサービス連絡協議会への参加実績があります。その他、ホームからの訪問や介護施設への訪問の実績もあります。	○	グループホーム間の相互見学など積極的な取り組みにより、質の向上やスタッフのスキルアップにつなげる活動もご検討下さい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族の状況に応じて訪問し、見学も実施されています。入居直後は家族との連絡を密にし、馴染まれるまで相談しながら対応されています。	○	訪問時や見学時の記録等を整備され、入居判定やその後の計画作成などに有効活用されることを推奨します。体験入居などへの取り組みもご検討されることを期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの知恵を活かしたアドバイスを頂いたり、ご利用者から教えて頂くことは多々あるとのことです。また、ご利用者から労いの言葉もよく頂くとのことです。訪問時にはご利用者に食事を褒めて頂き素直に喜ばれるスタッフの表情がありました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で意向の把握に努められています。把握したことは経過記録に記録されスタッフ間で共有されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聴取したご利用者やご家族からの情報及びスタッフの気付きなどについては、経過記録に記録され、その情報を基に介護計画が策定されています。策定された計画は、スタッフに閲覧され共有されています。また、ご家族による介護計画書の同意についても問題ありませんでした。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに、介護計画について評価し見直しが行われています。また、ご利用者の状態変化があった場合の計画の変更や随時の書き込みなど、介護計画の変更事例もあるとのこと。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望や状況に応じて、近隣のお墓参りやご家族のご不幸時の対応について支援されています。また、理美容についてもご希望に応じて付き添う支援が行われているとのこと。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、健康診断の結果などについてはホームにファイリングされています。ご家族にも健康診断の結果の写しが配付されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は早い段階で話し合われています。終末期の対応は全入居者のご家族が希望されているとのことですが、その記録は確認できません。	○	入居の際、ご家族の意思を確認し記録に残す必要があります。また、状況に応じて話し合いを設け記録に残すようご検討下さい。ホームの方針を明確にする必要性についても一度ご検討されることを推奨します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応などご利用者のプライドに対する配慮は見受けられます。個人情報の漏洩防止などへの取り組みもうかがえます。しかし、個人情報保護法への対応は十分な状況とは言えません。	○	個人情報保護についての方針の整備など、早期対応が求められます。また、個人情報保護法についてスタッフ全員の理解を深めるための取り組みを推奨します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園では、サツマイモ・ピーマン・大根・生姜・オクラ・ミニトマト・きゅうり・豆などが栽培されており、ご利用者と一緒に収穫し、食されています。食事中は、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、2日に一回程度で曜日が定められていますが、ご利用者の希望に応じて対応されているとのことです。もちろん健康状態に応じた支援が行われており、散歩の後などタイミングにも配慮されています。	○	異性介助については、ご利用者のみでなく、ご家族の心理面も踏まえて検討されることを推奨します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ、荷物運びなどを積極的に手伝ってくださるご利用者もいらっしゃるということです。ご利用者の生活歴や職業歴などを活かした葉袋への名前書きや詩を作られる方の事例なども聴取できました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフや近隣の方の見守りのもと、毎日散歩に出かけられる方もおられるそうです。車椅子の活用などの事例も聴取できました。当日はご利用者にお見送りもして頂きました。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、見守りにより対応されています。安全面から玄関には家庭用チャイムが使用されていますが、その音量には配慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物にはスプリンクラーが設置されており、年2回の火災訓練も実施されています。地域への協力依頼も行われています。しかし、食料品の備蓄や災害時の必要品などの準備はまだ十分とは言えない状況です。	○	食料品の備蓄や必要品の準備など様々な災害を想定した対策が必要です。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については体温表に記録されチェックされており、食事量や形態の個別対応にも配慮されています。献立については、糖尿病療養指導士である管理者が作成されていますが、栄養士によるチェックなどは行われていません。	○	献立については、栄養士などのチェックを定期的に受けられることを推奨します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、ご利用者の手作りの作品が飾られています。また、季節に応じた花々が飾られています。ご利用者はパズルに取り組むなど、各々すごされています。また、清潔チェック表を活用し時間毎のチェックも行われています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われているとの事です。タンス、時計、いす、テーブル等の持込が確認できました。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。